

2007 年総会・懇親会報告

今年も 100 人以上が集まり盛大に

この会は OB による手作りの会です。桜の季節 4 月 7 日（土）の開催、会場は九段校舎 501 教室でした。役員は 2 ヶ月に 1 回程度集まって検討を進めて来ましたがそれも懇親、楽しみながらの準備会でした。今年の総会・懇親会の結果は以下の様なものでした。

盛会であることを目指した結果 110 名の参加を得ることが出来ました。理大創立 125 周年記念と重った昨年の 143 名には及ばなかったものの 100 の大台に 2 年連続で乗せることが出来たことは合格点をあげてもいいでしょう。理事長や学長の参加も定着してきました。

会の目標は もちろん OB 相互の親睦で、楽しいひとときを過ごしていただく事にあります。参加者は乾杯を合図に旧友と夢



理大 OB の歌手、祥子 & ラディッシュによる演奏

中で旧交を温めていました。会場となりの製図室では今年の卒業生による作品展示が行われていました。形式は立食パーティで酒を片手に料理をつまみ、理大 OB の歌手祥子 & ラディッシュのボーカルを聞きながら、昔話に花を咲かせる楽しい会となりました。忘れかけていた校歌を皆で最後に歌って散会となり、三々五々 2 次会へと散らばっ

2008 年度 築理会 総会・懇親会のお知らせ

1. メインテーマ
神楽坂新校舎建設着工を祝し旧交を温める会
2. 開催日時
平成 20 年 5 月 24 日（土）午後 3 時より
3. 内容（予定）

3時から 20 分間	総会、前年度会報、 連絡事項伝達
3時 20 分～4 時	講演
4 時～6 時	懇親会
4. 開催場所
神楽坂 1 号館 17 階会議室、講堂

て行きました。

来年も肩のこらない楽しい会として多くの方が参加してくれることを期待しています。

（藤森 正純＝I 部 6 期）



女性の参加も目立ってきた



A round-table talk

学生たちと語る建築学科のいま、築理会のこれから

このところ、理科大建築学科の学生たちは元気がいいという話を耳にします。どんなことをしているのだろう？ 今回の会報では、意匠、環境、構造、各分野の学生たちに集まってもらい、取り組んでいる研究や建築学科のいま、そして築理会について語ってもらいました。同席した石神築理会会長も学校の様子や研究が様変わりしていることに驚くことしきりでした。(敬称略)



——今日は6人の学生に集まってもらいました。九段校舎に移り、建築学科の様子もずいぶん変わったようですし、築理会報の2007年春号で紹介した「照明展」や「りぼん」など、以前はなかった学生主催の取り組みがいろいろと始まっています。

こういった話はわれわれOBにとっても誇らしいことですし、実に気になる。2005年から始まった「照明展」の発案者は吉川さんだと聞いていますが。

吉川：ええ。設計のアルバイト先でほかの大学の学生たちと交流するようになって、他大学はいろんなイベントをやっているんですよ。でも理科大の建築学科にはそれが無い。うらやましい、何かやりたいなと感じました。友達とも話をし、何かやろう、何がいいだろう、照明がいいなと。



吉川和博さん 意匠 山名研 M1

なぜ照明か。ものをつくるイベントがいいなと思ったのですが、いきなり建物をつくるわけにもいかない。作品が集まらなければしょうがない。照明であれば、学生でも比較的簡単につくれるし、何より建築学科以外の人が見て楽しいし、きれいでしょう。それでいて照明は空間にも影響を及ぼす。最初の2005年は「自分」というテーマを照

明で表現する作品を募って、11月の理大祭で展示しようと考えました。なんでもいいから自分の好きなものを照明という形で表現してと。

——おもしろいですね。作品は順調に集まりましたか？

吉川：……実は、苦労したんです。そのころは3年生で、最初は口コミで協力を呼びかけたのですが、5点しか集まらなくて。これじゃ展示にならないと気合を入れ直して——最終的には30点近くの作品が集まり、展示には約300人の方々に来てくれました。理大祭にはOBの方々も来るし、違う学校の人もくる。それに、これから理科大に入る高校生も来る。大学のイメージアップにつながればなあと思いました。

——うーん、すごいなあ。ずいぶんいろいろと考えているのですね。

吉川：今年も理大祭で展示を行います。後輩にバトンを渡して、もう少し幅を広げてやる予定です。会報を読んでいるOBの方々もぜひ、いらしてください。

——坂巻さんは昨年秋に発行した「りぼん」製作委員会のとりまとめ役だったそうですね。「りぼん」は学生の卒業制作を本の形でまとめたものです。

ここに置いてありますが、いやあ、なかなかすばらしい出来栄ですよ。きっかけを聞かせてもらえますか？

坂巻：卒業制作については、例えば仙台のリーグとか、いろいろなイベントが盛んですよ。さっき吉川くんも言いましたけど、いいなあ、理科大でもできないかなあと思ったんです。でも理科大の条件ではなかなか展示会をやるにしても会場なども用意しにくいし、それならば本という形はどうかと考えました。



坂巻直哉さん 歴史 伊藤研 M2

——でも卒業制作の本がなぜ「りぼん」なんで

すか？

坂巻：「りぼん」は実は理科大の本、「理本」ということなんです。後ろにアクセントです。せっかくなら広がりをつくりたい。学年を越えて、学校を越えて、関係のリボンを結ぶようなものにしたいという意味も込めて、平仮名の「りぼん」という言葉にしました。

——なるほど。そんな思いが込められていたんですね。それにしても本の形にして発行するには手間もかかるし、費用もかかる。そのへんはどうしたんですか？

坂巻：自費出版になっても仕方ないかなと思っていたんですけど、だめで元々という感じで先生に相談したのです。そうしたら、あれよあれよという間に話が進んで、築理会のOBの方々などが資金を援助してくれることになり、後援企業も含めて結果的に全額を負担していただくような形で出版できました。

OBを経由して企業にも後援の協力をお願いしたのですが、驚いたのはOBの方々のフットワークの軽さ。多くの人素早く動いてくれたんです。正直、ちょっと見直しました。

——いい話ですね。坂本さんには最近の研究の話をお聞きしましょうか？省エネや室内の空気環境など、環境系の研究室はいろいろと旬のテーマがあるのではないですか。

坂本：倉淵研究室では省エネや室内空気環境の研究をしています。某企業と共同で喫煙室の設計の研究をしたり、これも企業と共同でレンジフードの捕集効率に関する研究をしており、私自身もひたすら実験をやっている感じです。



坂本 淳さん 環境 倉淵研 M2

——実験などは学内でやっている？

坂本：住宅厨房のレンジフードの捕集効率に関する実験は共同研究をしている企業の技術研究所で行っています。研究室には施設がないので、修

士1年生のころから、かなりの頻度でそこへ出向いて実験の繰り返しです。

——私は1986年の卒業なのですが、当時は民間企業との共同研究は少なかったし、環境系の研究は解析や理論的なものが多かった印象でした。ずいぶん研究のやり方も変わっているようですね。同じく環境系研究室の島さんはどうですか？

島：私が所属する長井研究室でも、実測を伴うような研究を行っています。例えば家が建った後の断熱性能を測定する実験であるとか。設計図書通りの断熱性が保証されているかを確認して、その結果をフィードバックして、より精度の高い断熱負荷計算のソフトをつくろうということで。夜間電力を使ったオフィス空調の省エネ化などにも取り組んでいます。



島 浩佑さん 環境 長井研 M2

——今年住宅の省エネ基準が見直されるし、これらも社会的な背景のある研究ですね。建築もつくる時代から、環境の時代、ストックをいかに生かすかを考える時代に入っています。林さん、構造の分野では、変化はありますか？

林：ええ。そういう面でいえば、松崎研では「居ながら耐震補強」の研究をしています。住宅では住みながらいかに補強できるかが重要です。戸建て住宅の基礎や集合住宅の袖壁付柱の補強などを含めて、ポリマーセメントモルタルを使って耐震性を上げる技術の研究です。基礎についていえば、既存不適格住宅の無筋基礎にポリマーセメントで鉄筋を定着させる技術ですとか。

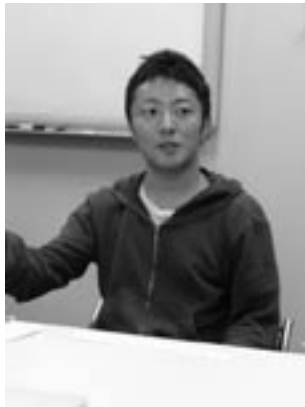


林 信行さん 構造 松崎研 M2

それからPC建物のPC鋼材にかかるテンションをコントロールすることによって地震時に損傷する箇所を限定して、補修しやすくする技術の開発などにも取り組んでいます。

——なるほど。ストックを生かすという視点をもつと、従来の専門分野にとらわれない視点が必要になりますよね。伊藤さんはどんな研究をしているのですか。

伊藤：佐々木研は、数学を建築に生かすことを研究しているんです。構造系にとらわれず、地震動の解析やシミュレーションだけでなく、環境振動、交通騒音など環境系の分野にもフィールドを広げています。データをもらってきてシミュレーションに生かすなど。変わったところでは、音声を数学的に分析する手法にも取り組んでいます。



伊藤 智裕さん 構造 佐々木研 M2

——石神会長、どうですか？話を聞いていて。

石神：いやあ、すごいなあと思って聞き入っていました。研究も含めて、こういった話はあまり聞く機会がないので、こちらにも刺激になりますね。

私は築理会の会長になる前から常々、OBと在学中の人との交流を高めたいと思っていました。だからこういった場は貴重だし、例えば、さきほど坂巻さんが説明してくれた「りぼん」などは、交流を深めるための架け橋なんじゃないかな。



石神会長

われわれができるいちばんのことは、学生が苦

手な資金面やネットワークのサポートでしょう。築理会の有志が援助した「りぼん」では、学生の主催で築理会へのお礼のパーティーを開催してくれて、本当にうれしかった。

いままで経験のなかったことだから、築理会でもどうしたらいい形で対応できるかを地道に積み上げることが必要でしょう。氷でもなんでも、核になるものが必要だし、ほんの小さなものでも核ができると、みるみるうちに大きくなる。

——今回、皆さんに聞いた話は会報を通じて、全国で仕事や研究をしている築理会のOBに届けられるわけですが、OBたちに伝えたいことはありますか？

坂巻：さきほども話したのですが、「りぼん」の出版に当たっては、OBのつてを頼ったんです。スポンサーになってくれる企業はないですかとお願ひしたら、またたく間に10社くらい紹介してもらい、協賛を得られた。すごく感謝すると同時に、こういったネットワークをもっと生かせたらいいなと思いました。

坂本：これはOBの方々に言うべき話ではないかもしれませんが、今は必要な実験をほとんど外でやっている状況ですから、実験室がほしい。あるいはそういった面でOBと連携できるといいですね。

石神：研究をしている学生の側から、交流をもつには、あるいは協力を得るにはどうしたらいいかを考えて行動してくれたら、こんなにうれしいことはない。築理会としても、頼もしい限りだし、私も今日、話を聞いたような研究であれば、今から自分が取り組みたいと思いましたよ（笑）。

総合図面ファイリングシステム

手書き図面からCADデータまでパワフルに総合管理
電子納品も簡単な設定で自動生成

ブラウザビューア搭載可能



イントラネットでデータを一元管理
まいく郎webブラウザ版

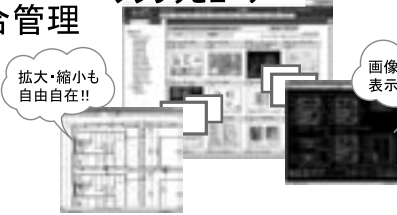
ブラウザビューア同梱



インターネットでデータを一元管理
まいく郎webのセキュリティを強化

まいく郎webの使い勝手を飛躍的に向上する

“ブラウザビューア”



拡大・縮小も自由自在!!

画像もCADも表示可能!!



* ブラウザビューアは、インターネットブラウザのウインドウ内で、CADデータの表示・印刷を可能にするソフトです。



株式会社 アイティユー

〒112-0014 東京都文京区関口1-24-8東宝江戸川橋ビル
TEL : 03-3235-8103 FAX : 03-3235-8104

http://www.it4u.co.jp/

企画営業部
sales@it4u.co.jp



株式会社 構造システム
のグループ会社です

釜山国際建築デザインワークショップ へ参加し、入賞しました

濱本 悠美 (1部41期)

2007 BUSAN INTERNATIONAL ARCHITECTURE
CULTURE FESTIVAL WORKSHOP
(2007BiADW WORKSHOP)

- ・期間：2007年8月22日～26日
- ・場所：韓国釜山市



敷地見学での説明 (2007/08/22 撮影：濱本)

【概要】

韓国釜山市の主催による、国際ワークショップへ参加した。今回のワークショップは、釜山の光復洞の実際の敷地を対象に、国籍を超えて組んだチームによる国際コンペである。韓国、中国、日本の建築を学ぶ学生114名が集い、設計で競い合った。

釜山市の光復洞は過密地帯で、60年代末には文化人たちの浪漫と文化に満たされた空間があり、80年代だけでも派手なファッションモールと映画に代表される若者の町として賑わっていた。しかし市役所が新しい場所に移転してからは、流動人口も減り、釜山一のにぎやかな場所という過去の名声は失われてしまった。そこで、ワークショップの課題では、かつての賑わいの中心であった美化堂(ミファダン)デパートを対象敷地とし、既存の潜在的空間の再構築や、より親

しみのある文化的空間としての「アーバンノード(Urban Node)」を、都市的な解釈と建築的アイデアに提示される計画案が求められた。



プレゼンテーションの様子(2007/08/26 撮影：宇野教授)

東京理科大学工学部建築学科からは大学院生2名(大河原礼美・濱本理紗)、学部生3名(井上裕介、栗原季佐、黒田桃)が参加した。4泊5日という短い期間で、初めて出会う人とチームを組み、英語でコミュニケーションをとって設計を進める。最終日のプレゼンテーションで、宇野教授、栢木助教を含む3カ国の先生方から講評を頂き、東京理科大学から2チーム(第2等賞：黒田、第3等賞：濱本)が受賞した。受賞作品は、10月に行われる釜山国際建築文化祭にて展示される。

共同で設計をすること以外にも、お互いの文化の違いを説明したり、言語を教えあったり、交友関係が深まった。ワークショップ後は建築ツアーも催され、韓国の文化に幅広く触れることが出来た。



第3等賞(濱本)表彰式の様子
(2007/08/26 撮影：Gwon O-Do)



第2等賞受賞作品(黒田)
(2007/08/26 撮影：濱本)

**せん dai デザインリーグ2007
卒業設計日本一決定戦
OFFICIAL BOOK**

建築系学生の頂上イベント、
卒業設計の“甲子園”

A4ワイド判・148頁
定価:本体1,600円(税込)

A5判・400頁
定価:本体1,995円(税込)

建築の未来を、ここに予感する。

トウキョウ建築コレクション2007
全国修士設計作品集

建築資料研究社 / 発行 〒171-0014 東京都豊島区池袋2-72-1 Tel.03-3986-3239 Fax.03-3987-3256 <http://www.ksknet.co.jp/book>

**せん dai デザインリーグ2007
卒業設計日本一決定戦
OFFICIAL BOOK**

建築系学生の頂上イベント、
卒業設計の“甲子園”

A4ワイド判・148頁
定価:本体1,600円(税込)

A5判・400頁
定価:本体1,995円(税込)

建築の未来を、ここに予感する。

トウキョウ建築コレクション2007
全国修士設計作品集

建築資料研究社 / 発行 〒171-0014 東京都豊島区池袋2-72-1 Tel.03-3986-3239 Fax.03-3987-3256 <http://www.ksknet.co.jp/book>

建築系学生のための情報サイト

LUCHTA

「LUCHTA(ルフト)」とは、株式会社建築資料研究社/日建学院が企画・管理・運営する建築系学生のための情報サイトです。建築を学ぶ学生たちの卒業設計を始めとした様々な活動やイベント・コンペティション情報等、学生にとって真に必要な情報をリアルに発信しています。

「卒業設計日本一決定戦」
せん dai デザインリーグ2007
469作品掲載

日本一/kyabotou 日本二/2007-11-04-11-04-11-04 日本三/金台宮集

日建学院の建築系学生支援サイト <http://www.luchta.jp/> **ルフト** 検索

6代目築理学会会長・就任挨拶

石神 一郎（1部5期）
東京理科大学 建築顧問、再構築推進委員

このたび、築理学会の6代目会長に就任した石神です。1970年に平野研究室を卒業し、これまで副会長や築理学会報編集委員を務め、築理学会活動に協力してきました。



築理学会も42回生を迎え入れ、卒業生も6000名に到達いたしました。最近では理科大の名前がテレビ番組などでも聞かれるようになり、社会的にも認知度が上がっています。また、東京理科大学も125周年事業として、神楽坂キャンパスの再構築計画を展開しており、大きく変わる節目を迎えています。こうした状況のなか、築理学会活動への期待も大きいものがあると思います。

同窓会の役割は同窓生同士の交流とネットワークの確立、そしてその拠り所になることだと考えています。そのために築理学会があり、皆様の協力によってここまで育ってきました。

現在、会の活動としては、会報、名簿の発行、ホームページの充実、終身会員活動、新丸ビルの現場見学、築理学会賞などを実施しています。ホームページは「築理学会」で検索すればトップに出ますので、まずは見てみてください。活動予定のほか、築理学会会報のバックナンバーも見られるようになっています。

同窓会では、このように様々な活動を行っていますが、こうした活動は一人でできるものではありません。今後も何かやりたいと思ったときに実現できるよう、皆様にはどんどん活動に参加してほしいです。会長の役割は全体を見て、逆戻りしそうなときに後押

しすることだと思っています。継続することが大切ですので、皆様が楽しみながら活動できるような会になるのが一番だと思います。

4月の総会・懇親会には昨年に続き110名の皆様に出席していただき、同窓生同士の親睦を深めることができました。皆様に楽しんでいただき、翌年もまた出席していただけるよう総会運営委員会を設けて、半年ほど前から企画を練っています。皆様も総会に参加される際には、ぜひ同窓生の仲間にお声をかけていただき、一緒に参加してください。

今後の活動方針ですが、まずは築理学会の財政基盤の強化です。18年度の会費納入は312名で、十分な活動資金が集まっておりません。築理学会の活動をさらに充実させていくためにも会員数の増強が不可欠です。一人でも多くの方に会費の納入をお願いいたします！また、1975年以前の卒業生（10期以前）は3万円の会費を納入いただくと終身会員になれます。以後は、年会費は納入の必要がありません。終身会員は年に2回のゴルフ大会を実施して会員相互の親睦を深めております。今年もこれから、12月2日に行います。私も毎回このゴルフコンペに参加しています。この交流を通じて親しくなった方が、何人かおります。緑の自然の中でクラブを振っていると充実感を覚えます。ゴルフコンペの段取りをする幹事の方は大変ですが、楽しみにしている会員の方がたくさんいます。よろしくお祈りします。

さらに、これからは女性会員の増加を目指したいと考えています。建築科の卒業生でも女性の比率が増加しています。建築界の中での女性の活躍も目立っております。築理学会の役員に一人でも多くの女性会員に参加していただきたいと思います。また、同窓生と学生の交流をもう少し活発化したいと思います。去年は、築理学会賞の継続のほか、新しい取り組みとして学生の卒業設計を掲載した小冊子「リボン」の製作支援を行いました。

今年も、親しみやすい築理学会をコンセプトに皆様と一緒に会の活動を進めていきたいと考えております。皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。



目に見えない支える技術こそが大切だと考える。

回転圧入鋼管杭 ジー・エクス・パイル

G-ECS PILE®

<http://www.sansei-inc.co.jp>

営業品目：建築工事における基礎杭の開発・販売・施工 / 建築工事における各種杭の技術提案
※ 技術スタッフ募集中

株式会社 三誠
SANSEI INC.

本社 〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町20番3号 箱崎公園ビル7階 TEL: 03-3639-5226/FAX: 03-3639-8162
北関東営業所 / 茨城営業所 / 新潟営業所
(工学部建築学科卒 代表取締役 三輪富成・専務取締役 小川ひろし 他2名)

新任教員紹介

「物理と建築」

宇野 求

工学部第一部建築学科教授

卒業した中学高校（6年制）は理系が強く、キャンパスのなかに化学研究所のあるような学校だった。物理の授業では、ニュートンの「プリンキピア（自然哲学の数学的諸原理）」の原文をテキストにして力学を教えるような学風で、そこに集う生徒たちは「自ら調べ自ら考える」というコンセプトのも



とに、自由闊達な、旧制高校のような教育環境で育てられた。歴代校長のなかには物理学者もいて山川健次郎という名前を何度も聞かされた。そんなことがあって、インターネットの東京理科大学ホームページに山川健次郎の名前を見つけ、親しい感覚をおぼえなんとなく身近に感じた。山川健次郎は、理科大前身の東京物理学校の「理学普及運動」を応援した物理学者で草創期の物理学校に関わった人物のようである。

縁あって、この春（2007年4月）から理科大工学部に着任し、建築学科で建築の設計計画に関する研究教育活動を担当することになったので、「物理と建築」についてあらためて考えるようになった。「物理学」ということばは physics の訳語として作られた言葉だと思われるが、文字通り読むと「物（もの）の理（原理）について探求する学」で、素粒子に還元できる小さな次元の現象から宇宙のような大きな次元の現象まで、自然界の現象とその性質を物質とその間に働く相互作用によって理解探求する学問分野である。対して、「建築学」（architecture）は、人間（活動）のスケールや次元において、

人間（社会）のための physical な人工環境を構築する高度専門職ないしそれを支える要素技術の学術分野である。両者の共通する点は、古来、自然に対する哲学に基礎づけられている点にあり、相違する点は、建築学が人間社会を直接基礎づけるための応用的学術分野であって、自然科学（science）や工学（engineering）の範疇を越えて人文科学（芸術学、歴史学など）や社会科学（社会学、経済学など）にまで関わる点にある。21世紀の理科大生と共に、デジタル時代の physical（身体的／物理的）な建築現象をとらえ直し、魅力的な21世紀的現代建築のあり方とその構築の方法について

原論的に研究し実践（実験）を試みたいと思う。理科大らしい建築とは？とも想いをめぐらしている。

〔略歴〕

1954 東京生まれ→1984 東京大学大学院博士課程修了（工学博士）

- ・院生時代に設計事務所設立、代表
- ・東大生研原（広司）研究室で計算幾何学研究
- ・日本建築美術工芸協会特別賞 / 環境調和型都市デザイン国際コンペ審査員特別賞 / American Wood Design Awards of the Year / 吉岡賞 / 第1回 SD レビューほか受賞

2001 千葉大学教授→2007 東京理科大学教授

- ・現代都市空間の幾何学＋デジタル時代の非線形建築現象に関心がある

「構造の教育」

栗田 哲

工学部第一部建築学科教授

本年4月1日付けで工学部第一部建築学科に着任しました。専門は耐震工学で、幅広く研究をしてきました。大学院修士課程で地盤-建物の動的相互作用の研究に着手し、博士課程で地震動の研究を始めました。大学に就職してからは、杭基礎建物の振動特性、リスクマネジメント、免震・制振の研究に取り掛かってきました。現在の主な研究テーマは、免震・制振と建物の構造ヘルスマニタリングです。ゴムリングと木造架台を用いた戸建免震住宅の開発や、小地震や風で計測された振動データを構造健全性診断に活用する方法の研究などを行っております。



講義は、材料力学及び同演習、建築構造デザイン1、建築構造材料実験及び演習、第三部門実験及び演習、建築構造力学特論bです。今まで大学で、構造力学を中心に教えてきました。構造力学は、学生には昔から難解な専門科目ですが、近年の高校生の理科離れで更に難しく思われ、敬遠されております。学生の理解度を高めるのに最も効果的な方法は学生に興味を持ってもらうことです。そのために、構造模型制作や模型実験を取り入れた授業を最近試みてきました。本大学でそれをどのようにして行うか、現在、思案中です。

本学の卒業生は建築界の第一線でご活躍されております。今後、更に多くの優秀な人材を輩出すべく教育・研究を行う

TOKYO GAS



深呼吸したくなる都市へ。

葉脈のように都市一面に敷き詰められた導管を通して、各ご家庭はもちろん、ホテル、病院、ショッピングセンターなどの施設に供給される都市ガス。都市ガスの原料となる天然ガスは、石油や石炭よりも二酸化炭素の排出が少ないクリーンエネルギー。暮らす人が思わず深呼吸したくなる都市へ。私たちは天然ガスで実現します。

東京ガス株式会社
都市エネルギー事業部 新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー27F TEL.03-5322-7547(ダイヤルイン)
<http://eee.tokyo-gas.co.jp>

所存でございます。

[略歴]

- 1982年 東北大学工学部建築学科卒業
- 1984年 東北大学大学院工学研究科博士前期課程建築学専攻修了
- 1987年 東北大学大学院工学研究科博士後期課程建築学専攻修了(工学博士)
- 1987年 東北大学工学部建築学科助手
- 1989年 東北大学工学部建築学科助教授
- 1989年 東京工業大学総合理工学研究科社会開発専攻併任助教授(1990年まで)
- 1990年 チュウリツヒ工科大学客員研究員(1991年まで)

「日々流転」

辻本 誠
工学部第二部建築学科教授

2006年4月から工学部第二部建築学科にお世話になっております。その前は2004年7月から理工学部COE教授、さらにその前は無職。さらにさらにその前は2004年3月一杯、名古屋大学工学部教授、ということで国立大学が国立大学法人に衣替えた時に、それに殉じて辞職しています。理由をしばしば聞かれますので、この機会に現時点での解釈を。



1997-99年と役人をやって建築基準法防火規定の性能規定化に関わったことも手伝って、無限に増える仕事量と責任にかなり懐疑的になっているところへ「大学の先生が公務員である必要は無い」という世論。国鉄→JRのときも随分、気を揉んだのに、自分に降りかかってみると国民はほぼ無関心。そうか、別に小生の公僕としての実績には意味が無いのか、と思ったら、激務を続ける気力が失せた、というのが辞職の理由の一つです。

まあ、死ぬ時になっても本当の理由は分からないと思いますが、今、言えることは全部精算して無職になって本当に良かったなあ、ということです。世界・視点が変わるし、何より頭の動きが一挙にリフレッシュされます。

さて、専門は建築防火、出身は環境工学の講座ですので、熱、空気環境ぐらいを教えることができます。趣味は自然観察とフルマラソン。夜の北の丸公園に二部の学生さんと出かける建築学演習は結構、ファンの多い授業です。本人も都内にこんなに自然の濃い場所があったかと楽しんでおります。

[略歴]

- 1974年 東京大学工学部建築学科卒
- 1976年 東京大学大学院工学系研究科修士課程建築学専攻修了
- 1978年 同博士課程建築学専攻中退
名古屋大学工学部助手
- 1981年 同助教授
- 1993年 同教授
- 1997年 建設省建築研究所第五研究部防火研究調整官
- 1999年 名古屋大学大学院工学研究科教授
- 2001年 名古屋大学大学院環境学研究科教授
- 2004年 東京理科大学総合研究所 COE 教授
- 2006年 東京理科大学工学部第二部建築学科教授

平成 19 年会費納入のお願い

現在、平成 19 年度の会費の納入をお願いしております。同封の振込用紙にて、お振り込み下さい。

今後のさらなる築理会発展のため、多くの方のご協力をお願いします。

年会費 3,500 円
加入者名 築理会
口座番号 郵便局 00110-5-171952

「平成 20 年度築理会名簿について」

築理会としましては、平成 20 年度築理会名簿発行に向けて準備していますが、個人情報保護法のこともあり、名簿に情報(勤務先・勤務先 TEL・現住所・自宅 TEL)の記載を望まない場合は、その旨下記に連絡下さい。

FAX 03-5213-0976
mail: teru@rs.kagu.tus.ac.jp

築理会が協力：母校発祥の地記念碑の建立計画進む

明治 14 年 6 月 13 日母校東京理科大学は「東京物理学講習所」として産声を上げました。最近まで講習所(母校発祥の地)の具体的な所在地は不明でしたが、九段キャンパスの目と鼻の先、九段北 1 丁目、高速 5 号線西神田ランプ近くの堀留児童遊園周辺であることが判明しました。判明を契機に記念碑建立計画が一気に動き始め、本会も建立の会(理窓会に設置)からの要請を受けデザイン等に協力することとなりました。早速築理会ホームページに募集記事を掲載しデザインを募集しました。応募作品の中から理科大スクールカラー「エンジ」色の石材を用いて理科大の象徴「物理学」をイメージした作品が選ばれました。なお、記念碑は千代田区道「専大通り」に来年 3 月完成を目的に建立される予定です。

(林 孝夫 = I 部 4 期)

「編集後記」

学生たちの活動がおもしろい——編集会議で出たそんな声、今回の座談会企画の発端です。実際に話を聞いてみると、学生たちの取り組みはもちろん、意匠、環境、構造、各分野の研究内容も省エネや建築ストックの活用など、時代に即した旬なテーマに様変わりしていることに驚き、実業の世界で働くわれわれ OB とも、もっと実務での交流ができるのではと感じました。この路線で、次号は現場座談会に挑戦しようかなと考えています。(安達 功 adachi@nikkeibp.co.jp)

築理会報 2007 秋号

2007 年 10 月発行 Vol.40

発行所 : 東京都新宿区神楽坂 1-3
東京理科大学工学部 I・II 部建築学科
築理会事務局 03-3260-4271 (内 6689)
03-5213-0976 (FAX)

編集長 : 安達 功
編集委員 : 石神一郎、大岩昭之、広谷純弘、森清、伊藤学、
渋川克也、山名善之、平賀一浩、菊地宏、東有紀
印刷発送 : グローバルシステム株式会社